

人 広報



主な話題

Girls' Kitchen
栽培講習会
JA青年部 定期総会
伊達市へスマート農業導入支援を要請 その他

3月号
NO.689



TOPICS

1年の締めくくり確定申告も無事終わり、数字とにらめっこをして頭が痛くなった方もいるのではないのでしょうか。今度は農作業が始まり体を動かす季節です!作業のはじまりはケガをしやすいといわれていますので十分注意して作業をしてください。

■ Girls' Kitchen

2月4日(火)、JA伊達市女性部は長和地区コミュニティセンターふれあい館で、Girls'Kitchenと題し料理講習会を開催しました。講習会には女性部員17名が参加し、A班B班の二手に分かれて、JA伊達市さつまいもペーストを使用したポターージュなど全11品を作りました。参加した部員からは「またやりたい!」と第2回の開催を望む声も挙がり、大好評に終わりました。



JA女性部



■ 手縫い雑巾制作

2月12日(水)、JA伊達市女性部ホビークラブは毎年伊達市教育委員会を通じ市内の小中学校へ寄贈している雑巾の制作を行いました。この日は部員9名が参加し、一枚一枚丁寧に雑巾を仕上げていきました。女性部ではこの活動に必要な、タオル生地または手縫いの雑巾その物の提供をお願いしています。地域貢献活動として賛同していただき、市内の学びの場へ暖かいお気持ちと共に届けるべく、ご協力をお願い致します。詳しくはJA伊

達市営農指導課女性部事務局までお問い合わせください。



制作のようす

JA青年部



■ 伊達市農協青年部総会

2月7日(金)、第70回伊達市農協青年部通常総会がJA伊達市本所にて行われました。令和6年度の事業報告並びに収支報告、令和7年度の事業計画及び収支予算案、役員改選が可決されました。

部長 栗橋 勝利(留任)
副部長 佐藤 俊史(留任)
理事 大和田康太(留任)
理事 松本 翔太(留任)
理事 舟迫 徹(留任)

理事 若松 航洋(留任)
代表監事 坂元 博行(留任)
監事 広瀬 将大(留任)



総会のようす

年金友の会



■ 年金友の会定期総会・湯治

2月13日(木)、伊達市農協年金友の会定期総会及び湯治が洞爺サンパレスで行われました。総会では令和6年度事業報告並びに決算報告、令和7年度事業計画及び収支予算が可決されました。

会長 矢元 和良(留任)
副会長 高野ヒサ子(留任)
副会長 杓名 好明(留任)
理事 高橋 廣(留任)
理事 篠原 裕治(留任)

理事 長谷川貞子(留任)
理事 市川 洋子(留任)
監事 森 悟(留任)
監事 丹野 征之(留任)



総会のようす

■ 栽培講習会

1月下旬から令和7年度の栽培に向けての各種栽培講習会が続々と行われています。2月5日には和牛講習会とトマト葉菜類農薬講習会、2月13日には小麦栽培講習会がJA伊達市本所で開催されました。小麦栽培講習会ではホクレン麦類課の只石氏と胆振農業改良普及センターの川岸主査を講師に招き、小麦をめぐる情勢や動向、栽培管理や適期収穫、品種の検討などが説明され、今後の作付に向けての準備が進められています。



講習会の様子

■ 伊達市へスマート農業導入支援を要請

2月19日(水)、佐藤哲組合長は伊達市堀井市長を訪ね、スマート農業導入に対しての支援を要請しました。昨年、高精度位置補正情報のホクレンRTKシステム基地局の設置が完了し、高精度な作業やオペレーターの負担軽減等が図られる自動操舵システム導入を推進してきたところですが、導入希望者が大きく増えている現状の中、導入に係るコストは高価格であり更に高騰する見込みであることから、地域農業の担い手が将来にわたり意欲をもって安心して営農が継続できるよう導入に対して支援を要請したものです。



要請の様子

■ 小麦・豆・馬鈴薯採種組合合同総会

2月26日(水)、伊達市小麦・豆・馬鈴薯採種組合の合同総会をJA伊達市本所で行いました。令和6年度の事業報告並びに収支決算報告や令和7年度の事業計画及び収支予算案が示され全て可決しました。各採種組合は会員が限定されていることから例年合同での開催となっており、令和7年度は適正面積と安定生産の維持、高品質種子の生産と病害虫の防除指導、品種検討などを視野に入れた優良品種生産啓蒙などが示されました。



総会のようす

令和6年度地区別組合員懇談会における 主な質問・意見に対する回答について

1月14日~17日に渡り9地区(8回)で行われた懇談会ではお忙しいところ、85名の組合員の方々にご出席頂きまして誠にありがとうございました。皆様から頂きました質問・意見に対しましての回答を要約してお伝え致します。

今回皆様から頂きました貴重なご意見を踏まえ、ご期待に応えるべく事業推進に努めてまいりますので、今後とも建設的なご意見を賜りますよう宜しくお願い致します。

伊達市農業協同組合

■ 共通・その他

Q1. 農協職員が休みの日にアルバイト可能と聞いたがどうか。

A1. アルバイトに関する規程類を変更しております。但し、アルバイトを行う際は、業務上支障がなく、事前に申請をしなければならないルールになっております。また、農協として組合員への職員の斡旋が法律上、出来ないことになっていきますので、組合員と職員間で直接募集してもらうこととなります。

Q2. JA北海道大会にあった職員の人材確保は、極めて大きな問題。何かよい方法があれば。初任給と休日の問題があるが、力をいれて対応をお願いしたい。対応できる職員がいなくなれば、更に問題も出てくる。

A2. 人口減少に伴い、厳しい人材確保の状況が続いています。新卒採用においては、大卒・高卒を対象に採用活動を進めていますが、募集方法についてはさまざまな選択肢を検討しています。また、中途採用も視野に入れ、人材確保に向けて引き続き取り組んでまいります。

Q3. 農協の決算で、毎年事業利益を出して、長年赤字になっていない。積立している準備金・積立金は、どのくらいになっているのか。麦乾施設の更新等へ還元してもらいたい。(農協組織のために利用してもらいたい)

A3. 積立している準備金・積立金については、10億ほどで内訳は準備金で6億各積立金で4億の状況です。準備金等の取崩については、将来のリスクに備え安定した経営基盤にしていく必要がありますので、経営状況を踏まえ検討し、判断してまいります。

■ 事業推進室

Q1. サツマイモの産地化の目標面積はあるのか。産地化で取り組んでいるが、主要品目の取扱もあるので、稼働者等の人員の配分を考えたほうがよいのでは。

A1. まずは10haを目標とし、段階的に50ha最終目標は100haを目指し取組んでおります。稼働者につきましては、人員不足でご迷惑をお掛けしますが品目別に効率的運用を考えてまいります。

Q2. 今年度のサツマイモの面積計画は、どうなっているのか。苗づくりをやめる人がいるが、地元苗がないのに面積は増えるのか。

A2. 令和7年度の面積計画は6haを目指して推進しております。新規の方が何名かいますが、面積を縮小される方もおりますので厳しい状況です。苗につきまして

は、自家育苗を推進しているところであります。これにより自家育苗が増える見込みですので地元苗だけで間に合う予定です。

■ 営農生産部

Q1. 新規就農者の募集がないので、伊達市と柔軟に対応できないか。3品目にこだわらないで受入れる方法を検討しては。

A1. 伊達市担い手育成センターにて受入れ体制や研修内容、営農における投資額や収益性などを含め検討してまいります。

Q2. 野菜の総会の中で中央会が来て説明をしていたが、指摘を受けたのか。

A2. 北海道JA経営健全化対策事業規程に基づき事前取組JAの指定を受けている現状にあります。販売事業につきましても収支改善が求められており、中央会からの助言と捉えていただければと思います。

Q3. 地域振興計画の中の主要品目の取扱高向上の計画で、令和7~8年度の計画数値の上昇率が高いと思うが算出の理由を教えてください。また、計画の検証はどうやってやるのか。検証については、他の人に意見をもらうとかアイデアをもらうとか、例えば普及センターと連携するとか、プロジェクトチームを作る予定はないのか。

A3. 振興計画では品目の絞り込みを計画しておりますので、主要品目の目標数値として設定しております。検証については取扱数量を基本といたします。また、プロジェクトチームの計画はありませんが、関係機関と連携を進めてまいりますので、引き続き生産者の皆様のご協力を頂き達成を目指してまいります。

Q4. 青果部門は、何を主としてっていくのか。青果部門が赤字で、農家も赤字での地域なら、青果部門が赤字なのは理解できる。しかし、農家は、安定して黒字の経営を継続しているにも関わらず、青果部門が赤字なのは、なぜか。農協の青果部門が赤字である以上、農協として、計画の中で具体的対策を示してもらえないか。

A4. 様々な要因が考えられますが、農協としては取扱高の減少が大きいと考えます。中期計画でも示したとおり青果物の品目を絞り込みと安定的な集荷量により事業収益の確保に繋げていきたいと考えておりますので協力をお願いします。また、各部会組織と協議し将来の方向性や対応についてお示しできればと考えております。

- Q 5. 農協として5年後10年後、どのような農家を増やしていきたいというビジョンはあるのか。農家が減少して、面積が余ってきたときに農協として個々の農家に経営プラン等の提案ができるのか。
して、面積が余ってきたときに農協として個々の農家に経営プラン等の提案ができるのか。
- A 5. 農家戸数の減少が進み1戸当たりの面積が拡大になることが予想されます。野菜栽培では労働不足など拡大は難しいので畑作物になると思われます。スマート農業機器の活用を推進するとともに必要とされる施設の改修や再整備について検討し、単農協では困難である場合は近隣JAと協議の場を作っていきたいと思えます。
- Q 6. 農協からブロックリーについて増反してくれとお願いがあったが、収穫の手間があるので、対策をしてほしい。
- A 6. 面積増反に向け推進しておりますが、外国人雇用での収穫作業についてブロックリー部会と協議し検討しておりますので後日にてご連絡いたします。
- Q 7. 鹿の被害対策として、専門家を含めワーキンググループを作って、モデル地区をきめて広域でネットをして入らないようにしてはどうか。
- A 7. 鹿などの被害対策として伊達市鳥獣被害防止対策協議会が組織され対応にあたっておりますので、会議体において提案してまいります。
- Q 8. 近隣市町村で鹿熊の害獣駆除を自治体がプロを雇って駆除にあたっていた。伊達市も同じように対応できないか。農協から市へ要請してもらえないか。
- A 8. 内容について確認の上、要請してまいります。
- Q 9. 精米機は、故障で機能しなかったことはなかったが、少し滞った時期もあった。今年度、どうい対策していくのか。新しい機械の導入検討について会議がどう進んでいるのか。
- A 9. 米麦改良協会にて機械更新や人件費用を算出し、利用料金を協議しております。更新費用が高額になることから組合員の負担を軽減すべく補助事業の活用を含め検討しておりますが、併せて伊達市へ要請しておりますので、経過については方向性が決まりましたらご案内いたします。
- Q 10. 米価があがっているが、見返りはあるのか。
- A 10. 米価高騰の影響もあり、追加概算払いがありました。最終的には共同計算にて決定しますので詳細が解りましたら農協だよりにてお知らせいたします。
- Q 11. 11月末か12月に精米したら良くない状態だったと話を聞いて確認したが、良くなかった。どのような内容等で、クレームはあったのか。
- A 11. 米粒の大きさや水分により若干影響のあった方がおりました。
- Q 12. エコチク事業（環境負荷軽減型持続的生産支援事業）はなくなるのか。
- A 12. 現在の事業内容での事業は終了となり、事業名が変更される予定です。新たな事業では、取組項目にコスト低減に向けた内容が追加され、これまで以上に活用が難しくなると予想されます。
- Q 13. 稼働者の募集状況や今年の見通しはどうか。時給は作業内容で違うのか。
- A 13. 昨年度については、時給を上げたことによって多数の募集がありました。また、外国人雇用についても5名雇用できました。令和7年度についても継続し外国人雇用ができる体制を整えています。昨年度の新規雇用の方にはこれから聞取りを行いますので来てくれると思います。季節雇用なので次年度以降の雇用確保に対しては不透明で難しい状況にあります。時給については、雇用年数と作業内容にて差を付けております。

- Q 14. 外国労働者の入れ替えになった理由は何か。農協の管理等で問題があったのか。
- A 14. 依頼した人材派遣会社と外国人雇用条件が異なったようで終盤ではありましたが途中での帰国となりました。農協での作業内容については、人材派遣会社とは折り合いがついておりましたが外国人にとっては不満があったかもしれませんので本年度は、今年度の反省を踏まえ雇用できればと思っております。
- Q 15. 1日農業バイトは、活用されているのか。
- A 15. 数名の方が利用されておりマッチングしております。農家登録人数はありますが、皆さん募集時期が短いので2週間前からの募集をお願いしております。
- Q 16. 外国人労働を入れてみてどうだったか。人数は増やすのか。大体3年ぐらい運用してみて、悪いところ良いところ分かると思うので、それから本格的な導入を進めていく。その3年の間に空き家等々も探しながら、住居の確保について、市の方にも要請等したいと思う。
- A 16. インドネシア人で20代の人数は5名（男性2名・女性3名）の雇用で大変良かったです。当初3年での期間でしたが今回は不都合により1年で終わってしまいました。次年度も5名雇用予定となっておりますので本年度の反省を踏まえ雇用条件を確認し雇用できればと思います。また、外国人雇用について困ったことがあれば伊達市へ協力の要請をしております。

■ 購 買 部

- Q 1. 年末のマーケットの客が少ないと聞いたが本当か。年末で他の店は、客でいっぱいなのに理由はあるのか。野菜が相当高くなっている中で、道の駅は、野菜が売れて良かったが、農協も野菜メインで表にださなかったのか。
- A 1. 年末商戦では残念ながらご指摘のとおり苦戦し計画を下回りました。戦略不足と反省し、様々ご意見を参考に対策を立ててまいります。また、野菜に関しましては、農協として消費者に期待される場所ですので、地場野菜の販売に力を入れてまいりたいと思えます。
- Q 2. マーケット事業で競合店の出店もあり苦労していると思うが、マーケットは、高齢者が多くて若い人が少ないと感じる。中には子連れの若い顧客もいるが、その顧客がどういったものを購入しているか、把握しているのか。把握して品揃えをしていけば、若い客層がくるのではないか。
- A 2. 現時点では顧客の細かな購入データは把握できておりませんが、ポイントカードデータを活用して客層及び地区別での買上実績データ等を収集しております。今後もデータ分析を行いながら、系統機関と協力して若い客層も取り込めるよう品揃えを強化してまいります。
- Q 3. マーケットが地域に密着している店として、他店では出来ない自治会やPTAなどのイベントなど地域の催しに対応できるサービスを強みとしてSNS等で発信していけば、他の顧客へにもつながるのでは。
- A 3. 現在、学校や保育所、老人施設など公共の機関への納品業務について対応しております。SNS発信についてはLINEを活用した発信をしておりますが、今後は別媒体によるアピールも検討してまいります。
- Q 4. マーケットの利便性もあるから、失くしたくない気持ちもあるので、事業が継続できるようにしてほしい。
- A 4. 収支改善を第一目標として取り組んでおりますが、依然として厳しい状況が続いております。あらゆる選択肢を考慮し事業継続に取り組んでまいります。

令和6年度 職員資格認定試験 合格者のご報告

令和6年度の農協職員資格認定試験の合格者について以下の通り報告いたします。
今回取得した資格を活かし、職務に励んで参りますので宜しくお願い致します。

■上級 5名

松田 吾朗・山本 安孝・澁木亜弓実
高野くるみ・高橋 孝一

【農協職員資格認定者 R7年2月28日現在】

基本資格 計70名

(特級2名 上級34名 中級16名 初級18名)

専門資格 計11名

(営農指導員3名 内部監査士8名)

■中級 1名

佐藤 弘庸

■初級 1名

岡本 亮子

JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

第6回「東野ひでき北海道後援会の活動経過」について

過去の参議院選挙(比例代表)での危機感を踏まえ、改めて組織選挙の意義を共有の上、候補者の認知度を高め、組織力の結集による運動を徹底することが大切です。

北海道後援会では、JA役員、組合員、青年部・女性部盟友、各連合会・関係機関など東野ひでき氏の応援の輪を広げていくために、農政学習会等を通じて「なかまづくり運動」を展開してきました。

「ひできのなかまづくり運動」

「ひ」…ひとりでも多く! 「で」…できることから! 「き」…きょうから始めよう!

各々が、応援を依頼する「なかま」を確実に2名以上特定し、さらに、その「なかま」1名につき、新たに2名以上の「なかま」を特定し、「なかま」を広げていきましょう。

令和6年3月29日に東野ひでき北海道後援会を設立して以降、主に以下の取り組みを実施しております。

- JA総会・総代会にて東野の動画映写や組織結集に向けた決議等を実施。
- JA・連合会にて推薦手続きを完了。
- 道連常勤役員・地区会長他によるJA等巡回。
- 東野による全国連・全国機関、都府県連合会・JA等巡回を実施。
- 東野による道内各連合会、関係機関、取引先、JA等巡回(動ます会)を実施。
- 農政学習会の実施。
- 各種資料の活用。
(農政学習教材(資料・動画)、東野ひでき紹介動画、室内掲示用ポスター、リーフレット、運動推進ステッカー、名刺貼付用シールなど)
- JA広報誌での連載と北海道農政ジャーナルの発行。
- SNS(HP、LINE、Instagram、YouTube、Facebook)による活動報告。
- 青年部・女性部による東野ひでき親衛隊「動画大作戦」の実施。(毎月1回YouTube配信)

今後は、上記の取り組みに加え、屋外用政治活動用ポスターの掲示(野立て看板の設置)、東野出席のもと道内12地区の巡回等や、青年・女性組織の道・地区・単組段階での推薦手続き等を実施していきます。

農業・JAを取り巻く厳しい状況下において、JAグループ北海道の政策提案を実現し、組合員の営農と生活を守るためには政治力の強化が極めて重要であります。

農政学習運動等を通じて組織選挙の意義を共有し、引き続き「なかまづくり運動」を広げていきましょう!

【JAグループ北海道の農政活動強化に向けて】と題し、農政活動や参議院選挙の仕組みなどを、来年まで連載いたします。次回(第7回)は、「業界を代表する候補者を選ぶことの重要性」について報告します。



東野ひでき公式
LINEアカウントへの
登録はこちらから



東野ひでき北海道後援会

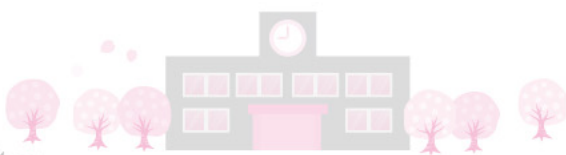


換地委員会の働き

▶第26回理事会…令和7年2月17日(木)

〈議案〉

- 第1号 JA伊達市特別条件緩和資金措置対象組合員等の経営継続について
- 第2号 令和7年度譲渡(家畜)担保評価・頭数の設定基準について
- 第3号 JA体制整備モニタリング実施要領に基づく信用事業担当者の人事ローテーションの特例について
- 第4号 令和7年度事業計画の一部変更及び早期警戒制度適用による5ヶ年収支シミュレーションについて
- 第5号 決算棚卸日程等について
- 第6号 決算監査日程について
- 第7号 地区別組合員懇談会の意見質問に対する回答について
- 第8号 令和7年度役員報酬審議委員の委嘱について
- 第9号 令和7年度役員報酬の諮問について
- 第10号 令和7年度監事監査計画案について
- 第11号 令和7年度内部監査計画案について
- 第12号 令和7年度経営定期点検実施計画案について
- 第13号 令和7年度コンプライアンスプログラムについて
- 第14号 就業規則及び人事規程、育児及び介護休業規程の一部改正並びに復職支援実施要領の新設について
- 第15号 令和8年度新規採用職員採用(案)について
- 第16号 出資金の持分譲渡について



未来を変える。 みんなで変える。

国営緊急農地再編整備事業

「伊達地区」 Vol.89

換地委員会を開催

2月10日(月)に長和地区換地委員会、2月17日(月)に関内東地区換地委員会をそれぞれ開催しました。

今回の委員会では以下の項目について審議・決定を行いました。

【長和地区】

- ・土地評価の項目について(修正)
- ・従前地机上評価の集計と項目別配点について
- ・等位別価格について

【関内東地区】

- ・会議等の運用の改正について
- ・従前地再調査の結果について



◆問い合わせ先

【国営緊急農地再編整備事業に関すること】

伊達地区国営緊急農地再編整備事業促進期会事務局

(伊達市 経済環境部 農地整備課内)

TEL0142-82-6161(直通)

発行 伊達市農業協同組合(営農指導課編集)

〒052-8666 伊達市末永町74 TEL0142-23-2181

E-mail kouhou@ja-dateshi.or.jp http://www.ja-dateshi.or.jp



ホームページ



フェイスブック



インスタグラム

